

猫八態

池田桂一

流し台の水音聴きていち早く跳びくるシロはねずみがおもちや（白猫）

暗がりに目を光らせてうずくまるクロの道化おどけはわが肩めがけ（黒猫）

茶のにじむニクロは甘えの黒の猫餌ねだりする寝ころび万歳（二番目の黒猫）

サンクロと名前を順に名付けたり三匹の黒猫生まれしゆえに（三番目の黒猫）

三毛ならぬシトラは通い猫となり朝夕戸口に來て餌ねだる（白とトラ猫）

幾度も名前を呼べど知らぬふり餌時刻どき以外は無視するチャトラ（茶色のトラ猫）

冷えるねと声をかければ膝に來る子猫は寒がりやせのチビマル（白と黒の猫）

ニャオではわからないよとつぶやけばしばらくたちてニーオと答えぬ（トラ猫）

五つ仔の猫それぞれにくせをもつ日向をえらぶ位置そのままに

降り止まぬ雪積む庭に消えのこる猫の足跡ひと筋つづく